

淡路島からは、現時点で上記のように5箇所から合計11個体の本種が発見されている。

このうち、最初の発見地である洲本市中津川をはじめ厚浜、宇山、三熊山には、規模の差はあれいづれも照葉樹林あるいは照葉樹林に移行する以前の比較的自然度の高い林があり、その林内あるいは林縁で本種が得られている。

このような事実から、本種は比較的自然度の高い森林の周辺に分布すると考えていたのであるが、三原町八木の産地は平野部で、周囲にも目ぼしい植生が見られないような場所であり、このような環境下での本種の発見は意外であった。

もっとも、本種の幼虫の食草としてはノブドウ *Ampelopsis heterophylla* Sied. et Zucc. が知られており、これは山野に広く見られる植物である。

従って本種は、発生時期が早春であること、個体数が比較的少ないことなどから従来より稀な種とされてきたが、決して分布が極限される珍稀な種ではなく、少なくとも淡路島に関しては、中・南部地域に広く分布する種であるといえる。現時点では北部地域から記録がないが、恐らく分布するものと思われる。引き続き会員諸兄の協力を得て、調査を継続したいと考えている。

### タマムシの幼虫の食樹について

タマムシ *Chrysochroa fulgidissima* の幼虫の食樹としては、これまでにサクラ、ケヤキ、エノキ、カシ、シイ、カキ、モモ、ヤナギなどが記録されている。筆者は昨年（1983年）の1月から3月にかけて、洲本市安乎町において、ヤブニッケイとビワの枯木で本種の幼虫を多数確認したので報告しておく。

（堀田 久）

### 南淡町でイシガケチョウを採集

1982年10月24日、南淡町阿万でイシガケチョウ *Cryestis thyodamas madella* Fruhstorfer 1 ex. を採集したので報告する。

尚、標本は筆者が保管している。（藤平 明）

